



# 実用新案登録願

昭和51年12月22日

特許庁長官 片山石郎 殿

1. 考案の名称 <sup>ツル</sup>樹脂製<sup>ワ</sup>容器<sup>キ</sup>の<sup>フ</sup>蓋

2. 考案者

住所 <sup>フナバシシ マニカイ ツカマナ</sup>千葉県船橋市前貝塚町340-4

氏名 <sup>オホヤマ</sup>大山 <sup>チユウ</sup>忠臣

3. 実用新案登録出願人

住所 <sup>チヨウダ</sup>東京都千代田区東神田2丁目3番10号  
<sup>フナバシ</sup>船橋<sup>カ</sup>化成<sup>セイ</sup>株式<sup>シヤ</sup>会社

氏名 代表者 <sup>ミヤノ</sup>御所 <sup>ヒデヲ</sup>秀夫

4. 代理人 人〒104

住所 東京都中央区京橋2丁目9番地京橋堂ビル  
(5683)弁理士 小山 欽造  
電話 (03)561-6073

氏名

5. 添付書類の目録

- (1) 明細書 1通
- (3) 願書副本 1通



図面 1通  
委任状 1通

方式審査 (福井)

51 170847  
53-88443

## 明 細 書

### 1. 考案の名称 樹脂製容器の蓋

### 2. 実用新案登録請求の範囲

円形の大板 3 の周縁に側板 4 を垂下させた逆皿状をなし、側板 4 の内面に容器 1 の口部 9 の外周に形成されるねじ 6 に嵌合するねじ 5 を形成し、ねじ 5 の上方において大板 3 と側板 4 との接合部に断面半円状の溝 8 を形成して断面円形の軸状で容器口部 9 の座部 17 に当接するパッキング 7 を嵌着し、上記溝 8 の内方において大板 3 に容器の口部 9 の内面に嵌合する軸形壁 10 を形成し、側板 4 は細の開隙 11 により下方の開いた複数の舌片 4 a に分割し、各舌片 4 a の下端に外方に向けてフランジ 12 を形成し、一部の舌片のフランジ 12 に外周から上方に向けて 2 本のバンド抑え 13 を突設し、両バンド抑え 13 の間に舌片の外面から隆起させて突部 14 を形成し、バンド抑え 13 の内方においてフランジ 12 と突部 14 の下端との間にレバーの起倒により伸縮する軸状紐付バンド 15 を包圍させて成る樹脂製容器の蓋。

### 3. 考案の詳細な説明

この考案は、通常のドラム缶と同程度の大きさに造られる樹脂製容器の蓋に関し、着脱容易で確実に容器の口部を密封できる蓋を得ることを目的とした考案である。

樹脂製容器が大型化するに従ってこれを確実にしかも容易且つ迅速に密閉できる蓋の必要性が痛感されて来たが、この考案はこれらの要求を満足する蓋を提供するものである。

以下図示の実加例について本考案を説明すると、

1は樹脂製で高さ1 m程度の容器、2はこれの口部に螺着される蓋である。

蓋2は第2～3図に示すように、円形天板3の周縁に側板4を<sup>垂</sup>下させた逆皿状をなしており、側板4の内面にはねじ5を形成して容器1の口部9の外周に形成されるねじ6に螺合自在とする。ねじ5の上方において天板3と側板4との接合部に、断面円形の輪状パッキング7を嵌着する断面が半円状の溝8を形成し、該溝8の内方において天板3に容器の

口部 9 の内面に遊合する輪形壁 10 を形成する。

側板 4 は縦の開隙 11 により、下方の開いた複数の舌片 4 a に分割し、各舌片 4 a の下端には外方に向けてフランジ 12 を形成する。一部の舌片 4 a のフランジ 12 には外端から上方に向けて 2 本のバンド抑え 13 を突設し、両バンド抑え 13 の間に舌片の外面から隆起させて突部 14 を形成する。バンド抑え 13 の内方においてフランジ 12 と突部 14 の下端との間には、帯鋸の輪状締付バンド 15 を位置させる。締付バンド 15 は第 4 図矢印方向にレバー 16 を倒すと締付し、第 4 図のようにレバー 16 を起すと締付が解除されるものである。

以上のように構成されるから、レバー 16 を起してバンド 15 をゆるめた状態で蓋 2 を容器 1 の口部 9 にかぶせ、回転させてねじ 5 をねじ 6 に螺入させると、舌片 4 a が一方に撓み易いため側板 4 と容器の口部 9 との摩擦力は大きくないから、蓋 4 は容易に回転して容器口部に螺合し、パッキング 7 を容器口部の座部 17 に弾着させることができる。

ここでレバー16を倒してバンド15を緊締すると、舌片4aが容器の口部に押つけられ、ねじ5、6の摩擦作用が大になり蓋2が容器から外れなくなる。レバー16を起してバンド15をゆるめれば、蓋2は再び軽く回せるようになり、容易に容器から外すことができる。

開隙11は、側板4を多数の舌片4aに分けて該舌片4aを容器口部に対して撓み易くするものである。

バンド抑え13、突部14は、バンド15を装着するとき

にバンドを蓋の縁に安定よく位置させる作用をする。  
以上のように本案の樹脂容器の蓋は容易に樹脂製容器着脱できてパッキング7により容器口部を密封するものであり、樹脂成型により容易に製作することができて実用上有効である。

#### 4. 図面の簡単な説明

図面は本案の実施例を示し、第1図は本案の蓋を脱した容器の側面図、第2図は蓋の部分側面図、第3図は第2図のA-A断面図、第4図はバンドのレバー部の平面図である。

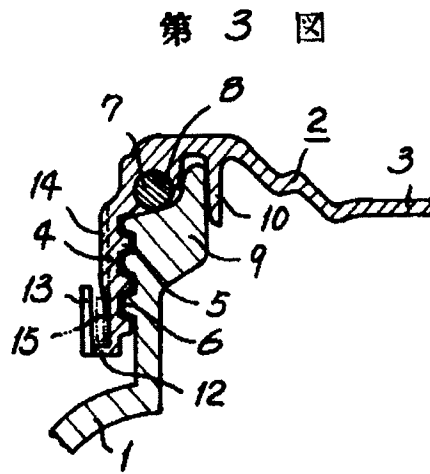
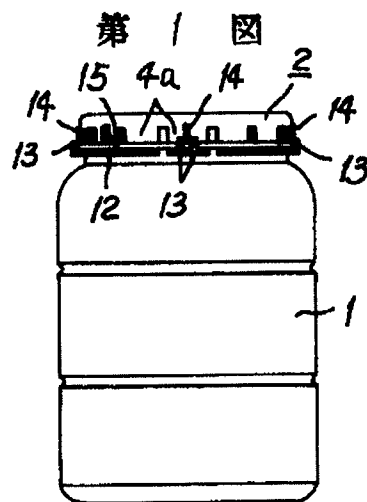
1 : 容器、2 : 蓋、3 : 天板、4 : 側板、5、6 : ねじ  
、7 : パッキング、8 : 溝、9 : 容器の口部、10 : 輪  
形壁、11 : 開隙、12 : フランジ、13 : バンド抑え、14  
: 突部、15 : 締付バンド、16 : レバー、17 : 座部。

実用新案登録出願人

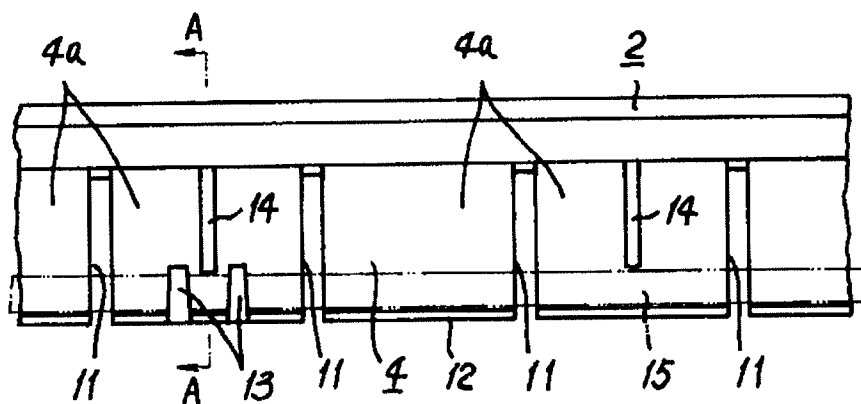
船橋化成株式会社

代 表 人

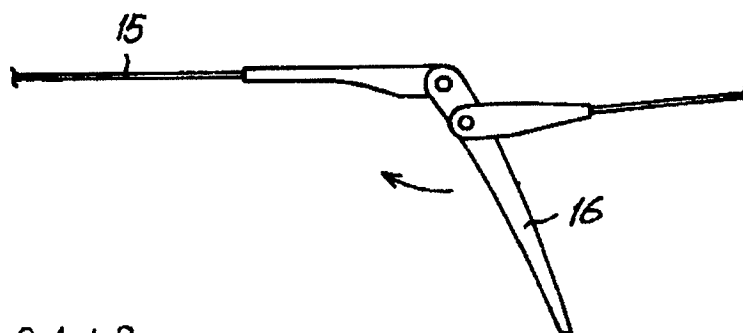
小 山 欽 造



第 2 図



第 4 図



8 8 4 4 3

實用新案登録出願人

船橋化成株式会社

代 理 人

小 山 欽 造